厚生労働大臣表彰
―約半世紀前の思い出―

わたなべ小児科医院
渡部 禮二（昭和48年入局）

令和４年10月に母子保健家族計画事業功労者表彰を受けた。県内の歴代小児科の表彰者はそれなりの偉業を成し遂げられた先達ばかりで恐縮している。

私の干支は猪突猛進の猪である。学部１年生の時にあった半年間のストライキの時の様に、周りを見ずただ突っ走っただけかもしれない。

昭和51年の入局４年目に金沢市内の病院へ１人医長として金沢赤十字病院へ１年間出向した。その頃の金沢赤十字病院は遠藤幸三院長を中心とした産婦人科が看板の病院であった。

入職後暫くして産科の出生新生児を健康管理という名目で体重や黄疸等の毎日のチェック、出生後と退院前の診察を始めさせてもらった。勤務時間はもとより休祭日も時間外も事ある毎に産科病棟に通った。その頃は人工哺乳が全盛期であったが、国立岡山病院の山内逸郎先生らにより母乳哺育が再認識され始められた時期であった。院内出生児への母乳哺育の推進を助産師や看護師に提案し、一緒に試行錯誤で始めた。その内に産婦人科の医師達も加勢してくれる様になった。助産師らの提案で無料の母乳相談外来を小児科外来で実施するようになり更に拍車がかかった。他科の若いローテーターのやっている事を産婦人科の遠藤幸三院長は黙って見守り、後押

表彰状

渡部禮二殿

あなたは多年にわたり母子保健の向上及び家族計画の普及に尽力されその功績は誠に顕著であります

よってここに表彰します

令和四年十月二十七日

厚生労働大臣　加藤勝信

しさえもして下さった。そして産科病棟にあったミルクは何時の間にか無くなっていた。

出向していた1年間で出生新生児の小児科管理と完全母乳栄養を完遂出来、また口伝えで分娩数も2倍以上に増えていた。今日では母乳栄養とか院内出生新生児の小児科管理は当然の事だろうが、その頃では北陸の先駆けだったと今でも自負している。しかし、私は言い出しっぺだったに過ぎず、周りの沢山の看護師、助産師、産婦人科医師そして事務方の人々の協力や手助けがあったからこそこれらを成し遂げる事が出来た事はいうまでもない。この経験はその後の私の医師としての生き方の礎となった。

現在金沢赤十字病院での分娩は中止している。病院自体の建物も新しくなり昔の面影もなくなった。そしてこの昔の事を覚えている人も居なくなり、残っているのは私の思い出の中だけになってしまった。